

### 旧飯野小・旧明治小応急仮設住宅と 福島市飯野町の皆さん

管理人 小林洋子さん(小宮)

イベントに場所を借りたり飯野地域福祉センターには大変お世話になっています。温かく迎えられ気を遣わずに利用できるの、皆、楽しんで満足した表情で仮設住宅に帰っていきます。初めての交流会の時は「地元の皆さんにどう思われているのかな」と少し不安な思いで参加したのですが、すぐに会話が始まって「ああ皆、話がしたかったんだ」と感じました。



隣接する飯野地域福祉センターで地元婦人会の皆さんと交流。10月には町内会の皆さんとバスツアーへ出掛けました。



福島市飯野地域福祉センター所長 矢吹稔さん

一緒に生活しているのですから、同じように施設を使ってもらうことは当然です。地域を知ってもらい、ここにおられる間、共に地域を作っていただけならと思います。飯野には飯館村とご縁のある人が多いですね。それも話してみても分かったことです。普段の付き合いができたなら、そこから深まっていきますよね。交流やつながりは大事だと改めて感じています。

自治会と飯野町婦人会の皆さんが集まり、12月に開く「飯野・飯館三交流会」の打ち合わせ

避難以来、婦人会・赤十字奉仕団などの皆さんと交流。交流には国見町社会福祉協議会の協力もいただいています。

### 国見上野台・大木戸応急仮設住宅と 国見町の皆さん



安田さんら「雑の会」の皆さんと、月に一度つるし雑の製作やお茶の時間を楽しんでいます



管理人 佐藤祐子さん(関根・松塚)

「雑の会」には長い間、毎月来ていただいて交流しています。針仕事をしない人も参加し、話してお茶を飲んで楽しんでいます。自宅の野菜をもらったりして、ご近所付き合いのようにもしてもらっています。町の皆さんと親月台文化センターで交流した5月の食事会では、昨年「ちまき」を教わった代わりに、柏餅作りを一緒にさせていただきました。

国見町赤十字奉仕団委員長 安田節子さん

奉仕団の内外にたくさんのボランティアのグループがあります。「仮設の皆さんの見守り活動をさせていただきたい、それには仲良くなればいんだ」と思い、「雑の会」でおじゃましたのです。「雑の会」はつるし雑で町を元気にしようとして活動してきたグループです。ただ仲良くおしゃべりして一緒に作って、身構えずに来ているから、こうして親しくなれたのかな。



避難直後から今まで、村は多くの支援や励ましをいただいています。また、村内でも村社会福祉協議会を始め村赤十字奉仕団や食を考える会他、多くの団体が、村民の絆を保ち笑顔を支えようとそれぞれ取り組んでいます。今回は、村の仮設住宅がある避難先市町村での支援や交流の、ごく一部を紹介しています。村と村民に心を寄せてくださる全ての皆さんに、心より感謝を申し上げます。間もなくやってくる新しい年にも、一つでも多くの、心からの笑顔が輝きますように。

### 支援と励ましに感謝をこめて

2013年、つらく不安な暮らしの中でも、時々村民の笑顔は輝いていました。全国各地また世界の国々からの支援、各避難先に生まれたつながり、村民相互の助け合いや、村社会福祉協議会など各団体の活動に励まされ、生まれた笑顔もたくさんありました。数えきれない支援と励ましへの感謝に、笑顔の花束を添えて、仮設住宅を置く避難先市町村で避難以来続けている支援とつながりを一部紹介します。

自治会イベントへの協力、市のイベントへの招待、また支援の橋渡しなど、避難以来継続的に支援をいただいています。

### 伊達東応急仮設住宅と 伊達市社会福祉協議会



管理人 長谷川花子さん(前田)

夏祭り、バスツアー招待など何度もお世話になっています。「保原サマーフェスティバル」には借り上げ住宅の皆さんと250人位で参加してもらいました。またボランティアさんの企画もつないでもらっています。先日はボランティアの方に「風評被害など皆さんも同じ被災者ですよ」とお話ししたら「家に住めない気持ちは違うと思う。何ができるか勉強して寄り添いたい」という言葉をいただきました。



伊達市商工会青年部や地元のボランティアさんも一緒に盛り上げてくれた夏祭り

伊達市社会福祉協議会 生活支援相談員 森清貴さん

企画を持ち込んで相談し、自治会の皆さんと共同でイベントを開いています。夏祭りには、市の商工会青年部や聖光学院の高校生、ボランティアさんも参加して屋台を出し、借り上げ住宅の皆さんにも声をかけ参加してもらいました。せっかく伊達市にいらっしゃるので、できる範囲でいろいろやれたらと。それが当たり前でお互い様だと思っています。



### 相馬大野台応急仮設住宅と 相馬市

管理人 北原康子さん(宮内)

避難後初めての自治会役員の会議で、市長さんから「市民と分け隔てなく支援したいので受けてほしい」とお話をいただきました。食事の配付は安否確認も兼ねたものです。毎月の班長会にも市の職員さんが必ず来てくれますし、「高齢者等サポートセンター」の利用も市民同様の対応をいただいています。



相馬市高齢者等サポートセンター職員 折笠明子さん

被災している人は皆同じだと思います。震災前から隣り合う自治体としてお世話になってきて、助け合うのが普通ですよ。飯館村の皆さんは、素朴でやさしい。食事の配付を利用している人も「助かる」と喜んでくれています。サポートセンターのお風呂で他の自治体の住民と仲良くなる人もいますよ。気心が知れて仲良くやっていただいて「いいな」と思います。イベントへの参加、ご協力にも感謝しています。



希望世帯の高齢者及び18歳未満(開始当初は希望の全入居者)への夕食の総菜提供等、市民と同様の支援をいただいています。



仮設住宅の談話室で365日行われる夕食総菜2品の提供。村民のスタッフが配付します